

華開いた六華苑

—第1回 新春六華苑祭—

新春の風

音楽部門 加藤 頂



桑名詩かるた



平成17年3月15日

第 17 号

桑名市文化協会
桑名市中央町2丁目37
TEL 24-1361

はじめに、新しい理事会企画、「新春六華苑祭」に御協力いただきました、各企業、団体、また、文化協会会員の皆様には、大変寒い中御協力いただきまして誠にありがとうございました。

この場をお借りいたしまして、心より御礼申し上げます。

玄関ホールに響くバイオリン、マンドリン、コーラスの歌声。



華道吟

和室に聞こえるかるたや、囲碁、将棋を打つ音。

茶道、華道、各流派、方々の伝統ある催事、また作品。

連日来場者の瞳、心に残る絵画や彫型画、写真、陶芸、書道、パッチワーク等の芸術作品。

桑名を代表する音楽、芸術、芸能、文化を、二日間に渡って盛大に行われました「新春六華苑祭」初の試みにもかかわらず、大変有意義な催し物になりました。

企画が発表されてから約一年、委員会でしたが、各理事の方々の提案、アドバイス等のおかげで、来場されたお客様方々には、満足



ふれあいコンサート

していただけたのではないかと思つております。

また、文化協会全体にとつても、各部門との親交を深められた大変貴重な二日間だったと思います。ただやはり反省点も色々あります。まずこの企画の宣伝、メディア等への広報活動、来場者への案内、それと、使用させていただいたいる会場が、歴史的建造物で、且つ桑名が誇る文化財であるという認識等です。

以上の反省点も踏まえて以降開催されるであろうこのすばらしい企画が、新桑名市に、新春を知らせる風のよつた祭典になればと思つております。

新春懇親会を終えて

芸能I部門 佐藤 幸代

(琴伝流大正琴・桑琴会)



二月六日、桑名市文化協会の新春懇親会が開催されました。今年は、六華苑横にあるおしゃれなレストランでの昼食会で、終始なごやかな雰囲気の中で行われました。

部門や各ジャンルの域を超えて、また何度も・長島の合併により、大きくなつた桑名市の今後を語り合われた方もいらっしゃったことと思ひます。

会食後のアトラクションでは、大正琴の演奏（涙そうそう・千曲川）をさせていただきました。市民会館等、いつもの発表の場と異なり、音量の調節等心配な部分が

たくさんあり、皆緊張しておりましたが、大正琴の音色をお楽しみいただけましたでしょうか。

我が琴伝流大正琴も、今年で創流三十周年を迎えます。また四月には、全国大会が長野オリンピック記念アリーナ・エムウェーブで開催され、五月には中京大会、六月には県大会があり、練習に励んでいます。特に全国大会は、今年二十周年の記念大会を迎え、各地からの参加チームとの交流が今から楽しみです。今後はいろいろなステップを経験しながら大正琴を介して交流を深めたいと思います。



7回目を迎えた今年のスプリングフェスタは、2月26日・27日の両日、桑名シティホテル2階ホールで開催されました。

昨年から「春の文化市場」を改称しスプリングフェスタとして、いろいろなジャンルの団体が一堂に会し、交流し合い親睦を図り、そして、参加団体の技術の向上を目指しております。

“スプリングフェスタ”ってな

うに?と、素朴な疑問をもたれた方の声を聞きますが、桑名文化協会の重要な文化事業の一環であり、各団体の持ち味を多くの市民の皆さんと共に共有出来る場として、位置づけられております。

今回の参加団体は、フイ・フラ・オ・レイアロハ桑名、日本アマチュア将棋連盟くわな、箏曲麗明廣子社中、ゴスペル(G・O・D)、

盛り上がった スプリングフェスタ2005

7回目を迎えた今年のスプリングフェスタは、2月26日・27日の両日、桑名シティホテル2階ホールで開催されました。

桑名マンドリン俱楽部、ハンズ大森手芸教室、フレンド・キルト、

着付け白樺会、ポーセラーツ、糸模様(クラシックレース)、フラメンコ・ルナの11団体でした。

(小林 信隆)



ミュージカル「獅子の笛」を
メインに羽子板遊びや風せん
つき歌もある桑名少年少女合

唱団第12回おんがく会が3月
21日2時30分より市民会館で

あります。:神様にお願いす
るお告げがあり、彼方の国
の黄金の稻穂をとつてこい

来て!見て!楽しんでちょ
うだい!

(小森 節子)

文化協会行事

日本文化を大切に

茶華香道部門 水谷陽子
(煎茶・松風流)

桑名文化協会に所属の茶華香道部門は、四季折々の市の行事に参加しており、各流派が力を合わせて催事を仕上げることの大切さを感じております。心の痛むことの多い昨今、日本文化の中に「和敬静寂」「一期一会」の心を少しでも感じることが出来たらと思います。茶華香道の催事に、是非お出かけくださいと願っております。



平成17年度 月釜日程表

とき 午前10時～午後3時30分(詳細は下表を参照)
ところ 六華苑 離れ屋・番蔵棟

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
平成17年4月17日(日)	表千家流	勅使河原和風会
5月15日(日)	裏千家	小原流
7月17日(日)	煎茶松風流	池坊
9月18日(日)	遠州流	石田流
10月16日(日)	松尾流	草月流
平成18年1月15日(日)	裏千家	MOA山月光輪花
2月19日(日)	表千家流	竹真流
3月19日(日)	遠州流	未生流中山文甫会 池坊サークル

菖蒲茶会

とき 6月4日(土) 午前10時～午後4時
ところ 九華公園内 社務所 松尾流
六華苑 和館一の間 裏千家 古賀宗月
前売券 1,200円、当日券 500円(入苑料別お茶一服)

桑名市文化協会育成補助金の募集について

桑名市文化協会では、芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対し補助金を交付しますので、ふるってご応募ください。

★補助対象団体等

文化協会の個人及び団体会員で当該年度4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍一年以上の会員。事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

★補助金の額

文化協会事務局(教育委員会文化課内)で申請書類を受け取り、同事務局へ申請する。

★応募の方法

平成17年3月22日～4月22日

(平成17年4月1日～平成18年3月31日の実施事業分)

★申請の制限

平成15年度・16年度に補助金を受けた会員は交付申請できない。

★お問い合わせ

桑名市文化協会事務局

(桑名市教育委員会 文化課内)

☎ 0594(24)1361

市民芸術文化祭を終えて

演劇部門 小川 秀樹

社会文化部門
小川 雅生(個人会員)

芸能Ⅱ部門 谷口 八洲江

芸能Ⅱ部門「吟劍詩舞道の祭典」が、昨

年十一月十四日、桑名市民会館ホールに於いて盛大に開催されました。早朝より各流派が一堂に会し、和氣藹々の場内は熱気に溢れていきました。詩吟、特に構成吟は趣向が凝らされ見事で、深く感銘を受けました。又勇壮な剣舞、優雅な詩舞等、日頃の成果を存分に発揮出来たことと想います。同じ趣味を持つ仲間がより研鑽して先賢の詩歌にふれ心豊かな伝統文化の輪が一層広がることを願っています。



陶房にて

加賀 瑞山

桑名市の今年度の文化功労者として、陶芸家の加賀瑞山さんが表彰されました。

加賀さんは、沼波弄山の創始による赤絵や写しを特色とした萬古焼きを守る数少ないお一人です。

市内では、陶芸教室の講師・市民展の運営委員・文化財保護審議会委員として、桑名市の文化向上及び文化財行政に大いに貢献されています。

加賀さんより寄稿いただきまし



桑名市の今年度の文化功労者として、陶芸家の加賀瑞山さんが表彰されました。

加賀さんは、沼波弄山の創始による赤絵や写しを特色とした萬古焼きを守る数少ないお一人です。

市内では、陶芸教室の講師・市民展の運営委員・文化財保護審議会委員として、桑名市の文化向上及び文化財行政に大いに貢献されています。

加賀さんより寄稿いただきまし

桑名市文化功労者表彰

そのまま土手になり日当たりは上々である。

遙かには頂に雪を置ぐ鈴鹿の山

が北から南へと七つ並んでいます。

私は自然の土を取り、手水を使い、轆轤を挽き、窯に入れ、木で火をおこし、四日間かけ焼き上げる。

自然の恵みに感謝、そして私に仕事をさせてくれる家族、友、出会える皆んなに感謝の日々です。

陶房の窓に西風が雪を舞い上げている。今日は早く温かい夕食の待つ桑名へ戻ろう。



本年度の市民芸術文化祭、社会文化部門は、コミュニティプラザで石取祭学習会を開催させて頂きました。現在文化庁による石取祭総合調査が進められておりますが、その行事の一環として市文化課の共催を得、また石取鉦鼓会の皆様の協力によりまして、ホールでは囃子の体験学習やクイズ、中会議室では祭事に使われる備品や写真パネルによる展示とビデオ上映など、石取祭に関係しないところの人たちにも石取祭を身近に感じてその良さを知つて頂こうという企画でした。来場者数や反響もさることながら、皆様の団結で一つの行事を成し遂げた充実感に溢れた一日でした。

十一月にコミュニティプラザで行われた「演劇の集い」は、「人間とは何か?」を問い合わせす二作品が上演された。

ベテラン若葉正則さんの「あほろくの川だいこ」では人間の業を掘り下げ、桑名西高校演劇部の「ユメカタリ」では、生と死を見つめ直した。これらの迫真的演技と熱演は、感動と共に人間の本質を私達に投げかけてくれた。

正に、演劇の魅力と可能性を再認識する舞台であった。軽さに逃げない二作品の上演で、演劇の強さを感じた。

文化部門は、コミュニティプラザで石取祭学習会を開催させて頂きました。現在文化庁による石取祭総合調査が進められておりますが、その行事の一環として市文化課の共催を得、また石取鉦鼓会の皆様の協力によりまして、ホールでは囃子の体験学習やクイズ、中会議室では祭事に使われる備品や写真パネルによる展示とビデオ上映など、石取祭に関係しないところの人たちにも石取祭を身近に感じてその良さを知つて頂こうという企画でした。来場者数や反響もさることながら、皆様の団結で一つの行事を成し遂げた充実感に溢れた一日でした。

文協文芸

だ よ い



文学部門 理事 梅原 幸吉

文学部門の会派は、ここ数年の間に脱会、入会があり、現在は次の個人、四団体の五会派です。

団体名	代表者	分類
(個人)		
金雀枝短歌社	松井 久雄	短歌
あやめ会	三田香代子	短歌
くわな川柳会	木原 広志	俳句
やまぶき	安田 治三	詩

従来秋の文化祭には短歌・俳句・川柳の三部門が短冊と色紙の展示を行い、特に十周年の一昨年は、「短歌・俳句・川柳に親しむ会」として野外展示を行ったが、昨年は会場の事情もあり展示の参加は見合わせ、それぞれの会の中で、その活動を通じ、文化活動の普及と振興に寄与する様努めました。今回はここで五会派の中では会員数の多い金雀枝短歌社（六五名）

とあやめ会（四三名）の二団体の活動状況を紹介します。

金雀枝短歌社

昭和二年の誕生で平成十四年には創立七五周年の記念大会を終え、現在八十年にも及ぶ活動を続け、その発行する月刊誌「金雀枝」は通刊八四五号を数える。

しかし会員の高齢化が進み、会員の減少傾向にあることから、若い層への短歌普及を進めたいものと、桑名市内の各小中学校に短歌応募の依頼を続けている。

金雀枝短歌社の代表者は、

「応募依頼の始めには、金雀枝を何と読むのかとか、逆にえにしだとはどう書くのかの質問から始ましたのでしたが、今ではその様な質問もなく、年々その応募数も伸び、昨年度は更に伸び小学生六七一首、中学生八三二首の応募作品が集まり、この事は私共の意とするところを御理解いただき、また短歌への馴染みが深くなっている証ではないでしょうか」と話してくれた。

戦前から続いているこうした文化組織は県内はもとより、全国的にも稀な存在である。この中で底辺の広がりに努力し、小中学生に短歌の楽しさを伝える地道な活動は、やがて大きな実を結ぶことと思われる。

あやめ会三十七年の歩み

あやめ会 長谷川 宏

平成十二年十月・桑名市文化功労者受賞、翌十三年七月三日他界された師、葛山たけし先生である。

昭和四十三年五月、桑名市公民館の「俳句講座」として講師葛山たけし先生が開講、これが「あやめ会」の第一歩である。会員は二十名であった。

同年に月刊俳誌「菊花集」を発刊、五年後「俳句講座」から「俳句クラブ」に改名、そして自主運

営を期に「あやめ会」を発足させ、月刊あやめ会誌発刊に至った。

以来三十七年間、中央公民館を主会場とし、毎月第二火曜日に句会を開催、春秋の吟行会もある。

葛山たけし先生の後継者は、三

重県の俳人協会、三重県俳句協会の要職にあり、「天伯」を後継

「煌星」を立ち上げた主宰「石井いさお先生」である。

「あやめ会誌」も通算四三六号を重ね現在にいたっている。

町と合併、新桑名市が誕生した。市長は“水と緑と歴史が育む豊かな快適交流文化都市”的実現をめざす。と力強く語られた。

また、市文化協会も、“市民の豊かな文化の創造と発展”を目的としており、合併を期に“文化的創造と発展”に力点を置き一層の推進を願っている。

そういった中で、昨年十一月二十日主催「西美濃・北伊勢観光サミットによる「電車とウォーキ俳句と観光」イベントが開催され、

桑名市商工観光課の呼びかけにより、我々「あやめ会」も“奥の細道むすびの地”大垣との文化交流の一環として参加した。後日主催者側よりの連絡により八〇〇句の応募の内より左記の投句入選句「あやめ会分」があった。

特選 根来 育

秀逸 蛤の縁行き交ひ秋の旅 長谷川 宏

入選 黄金色残して美濃の暮の秋 菊田 真佐

入選 美濃の風紙子に沁みる渋の色 水谷 武子

入選 蕉翁に一礼をして冬桜 佐野 芳子

秋惜しむ水都をめぐる橋幾つ

桑名ええとこ再発見

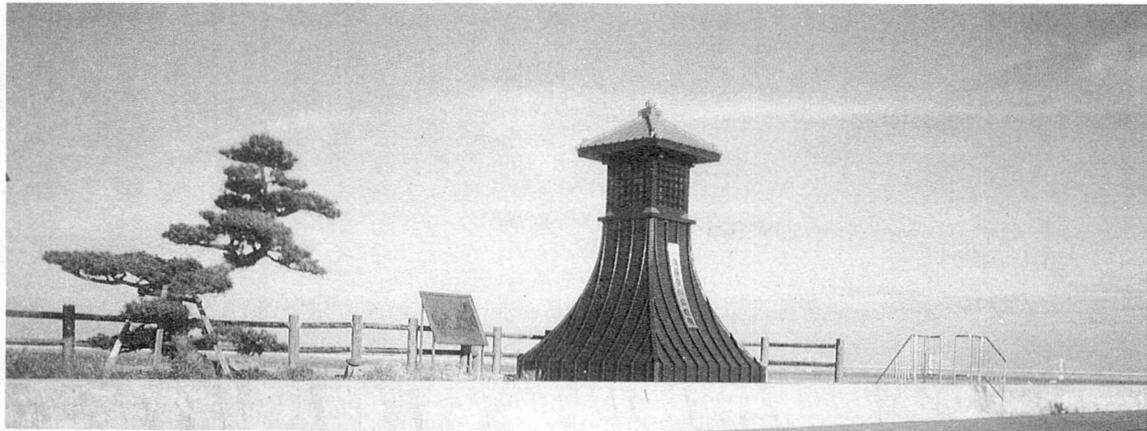
社会文化部門
大河内 浩

浜地蔵の常灯明

(個人会員)

揖斐川右岸、赤須賀漁港から名四国道の橋のたもとをくぐり、伊勢湾方向へ行く途中に一基の大きな常夜灯が立っています。そのそばには俗に「浜の地蔵さん」と呼ばれる竜福寺があり、俳人松尾芭蕉が貞享元年（一六八四）に訪れて詠んだ句碑もあります。

明治中期の木曽三川改修までは堤防が蛇行して、現在よりずっと東へ張り出した所にありました。当時より知多半島や富士山までも見渡せる風光明媚な景勝地、また白魚や青のりの産地として知られ、江戸時代桑名十景にも「赤浦明月」として名を連ねました。



第13回総会のご案内

日時 平成17年5月8日(日)
午前10時から受付午前9時30分から

会場 コミュニティプラザ 中会議室
内容 平成16年度事業経過報告について
平成16年度収支決算および

監査報告について

。平成17年度事業計画について
。平成17年度収支予算について 他

☆各部門ごとに代議員の選出をして
いただきます。詳しくは、各部門
長から連絡します。

桑名市文化協会への 入会方法

桑名市文化協会は、広く市民の文

化活動並びに文化事業の振興と連帶感の育成を図り、もって市民の豊かな文化の創造と発展並びにふれあい豊かな地域社会づくりに寄与することを目的に活動しております。

この目的に賛同していただける方

を募集しています。

普通会員(文化活動を行っている団

体及び個人)

特別会員(本会の目的並びに事業を

賛助する団体及び個人)

入会申込書は、事務局(教育委員

会文化課内)

多度・長島の方の入会も会員一同
お待ちしております。

昨年は様々な災害や事件が頻発しました。

今年も沢山、災いが起ころる気がして止まず、益々他人事では無く、「明日は我が身」との思いで、自身の身辺の備えを少しずつですが工夫しております。

未来があつてこそ文化であり又、文化が未来を築いていくものだと思います。

そんな中、編集会議に集われる委員さん達の温かい笑顔を拝見すると、桑名市の未来が明るく見える様な気がするこの頃です。

(飯田)

編集後記

広報担当副会長	西村 邦彦
文学部門	根来 毅
美術部門	牧野 京二
音楽部門	小森 節子
芸能Ⅰ部門	渡邊 法子
芸能Ⅱ部門	谷口 八洲江
芸能Ⅲ部門	飯田 正樹
演劇部門	小川 秀樹
社会文化部門	大河内 浩
茶華香道部門	丹羽 宗俊
趣味教養部門	中山 雅幸
子ども文化部門	小松理英子